

再びその人らしい生活に

ふれあい ひろば

2018年 春号 Vol.84

愛仁会リハビリテーション病院

大阪府地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://ajinkai.or.jp



- 1面 新しく赴任されたドクターのご紹介
- 2面 こどもとしごと職業体験 / (連載)チーム医療活動のご紹介④
- 3面 地域クリニックとの連携の中で⑧
- 4面 患者さまだより⑩ / 在宅サービスセンターだより

Doctor's new introduction

ドクターのご紹介



愛仁会リハビリテーション病院に新しく赴任されたドクターをご紹介します



リハビリテーション科部長
愛仁会看護助産専門学校 学校長

清水 富男先生

4月1日付けで、リハビリテーション科部長、並びに愛仁会看護助産専門学校の学校長を務めさせて頂くことになりました清水富男です。私はこれまで大学病院、高槻病院・千船病院で整形外科医として勤務しておりました。今回、リハビリテーション病院における勤務に加え、新たな役割として学校長を拝命致しましたが、看護師・助産師を愛仁会の各施設に安定供給できるよう入学の門戸も広く開け、学生が充実した学生生活を送れるよう努力していきたいと考えております。院内では整形外科回診を担当致します。よろしくお願いいたします。

リハビリテーション科医師

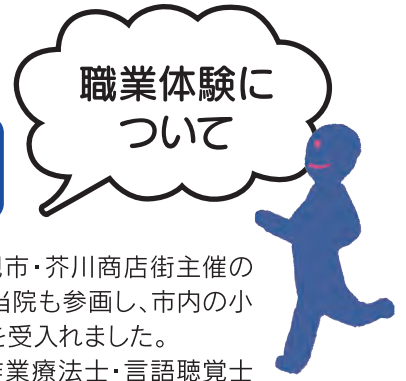
吉澤 賢志先生

愛仁会リハビリテーション病院にお世話になることになりました、リハビリテーション科医師の吉澤賢志と申します。私は平成27年に大阪医科大学を卒業し、昨年は高槻病院、大阪医科大学で急性期のリハを中心に診療していました。今年度は愛仁会リハビリテーション病院で回復期のリハを中心に診療いたします。入院された患者さんがより良い生活をできるように、笑顔で退院できるよう、患者さん・患者さん家族・多職種の方々とコミュニケーションを取りながら診療にあたりたいと思います。装具外来も担当しておりますので、義肢・装具の不具合、新しい義肢・装具作成などのご相談がありましたら、お気軽に当院までご連絡ください。今後ともよろしくお願いいたします。





こどもと しごと



平成30年2月4日(日)高槻市・芥川商店街主催の『こどもとしごと職業体験』に当院も参画し、市内の小学3年生~6年生27名の児童を受入れました。

体験内容は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のリハビリテーションに携わる3職種体験を行って頂きました。理学療法士では、下肢装具を装着しての歩行介助や車いすの操作。作業療法士では、脳血管疾患等で利き手が麻痺した場合を想定し、利き手でない方の手による食事場面の体験。言語聴覚士では、嚥下の評価、トロミ付きのお茶を食するなど、日ごろ、各療法士が患者さまに実施している評価や治療方法等について、職員と同じユニフォーム(ポロシャツ着用)で体験して頂きました。

リハビリテーション病院を始め、病院機能について、地域住民の方々に知って頂く機会には多くはありません。このような機会に病院が参画することで、児童や親御さんにリハビリテーション病院のことを、より知って頂く機会になったように感じています。改めて地域との連携について考える一日となりました。



連載

チーム医療活動のご紹介④

認知症回診

認知症ケアチーム(愛称ニンニン)の紹介

診療部 砂田 一郎

認知症の方が転倒などで骨折を生じて手術を受けたり、脳卒中などのために認知症になったり、急性期病院での入院生活環境によって認知症状が新たに出現するなど、様々な状況下での認知障害をかかえた方の入院が増加しています。認知症の方は不安や混乱を招きやすく、リハビリテーションが円滑に進まないことがあります。

認知症は一般的に進行性の病気であり現時点では特効薬もありませんので、ケア(看護、介護)が非常に重要です。ですから、この認知症ケアチームも名前のように、治療よりもケアに主眼をおいたチームです。

当院では、平成28年6月から認知症ケアチームを立ち上げ、認知症のせん妄や興奮といった周辺症状(BPSDといいます)の改善のため、環境整備やコミュニケーション方法などに介入をしています。また、各病棟に認知症に関する研修を終了した看護師(リンクナース)を配置し、認知症の方がその人らしい入院生活が送れるように協力しています。

認知症ケアチームは、日本認知症学会専門医、認知症看護認定看護師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、薬剤師、認知症ケア専門士の作業療法士、認知症ケア専門士の社会福祉士といった、認知症に熟知した職員で構成されています。

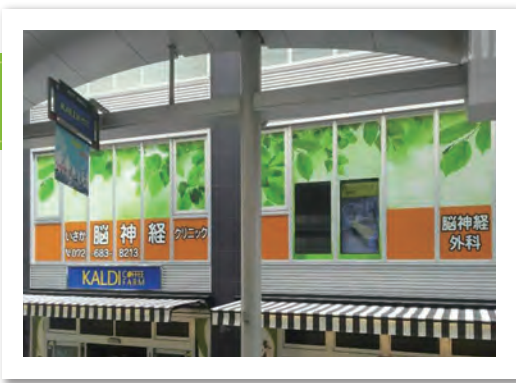
具体的な手順は

- 1 各病棟のリンクナースや担当医からチームへの介入依頼があれば、チームの看護師と社会福祉士が対象者情報をカンファレンス前に把握しておきます。
- 2 認知症ケアチーム全員で毎週1回、対象者のカンファレンスと巡回を行います。そして、主治医や病棟スタッフに、薬剤調整や対象者の状態に合わせた環境整備やコミュニケーションなどの介入方法を助言します。その巡回の際には、対象者やご家族に配慮し、“認知症ケアチームです”とは告げず、愛称である“ニンニンです”と告げるようにしております。

平成29年の1年間で25名の依頼を受け、対象者1名あたり平均2.7回の回診を行いました。阿部式BPSDスコアという周辺症状を計る基準で、介入開始時は平均15.6点でしたが、介入終了時には平均6.6点まで改善していました。認知症ケアチームの対策が短期間でも功を奏することがわかりいただけたと思います。

認知症のケアは時間と労力と根気を要する行為です。また、医療者だけの問題ではありません。家族を含め広く皆様との連携が重要ですので、ご協力をお願いいたします。





いさか脳神経クリニック

〒569-1123 高槻市芥川町10-3 荘田ビルW-201
TEL.072-683-8213

診療科目

脳神経外科
神経内科

今回は、4月に新規開院されましたいさか脳神経クリニック・井阪俊彦院長にインタビューさせていただきました。

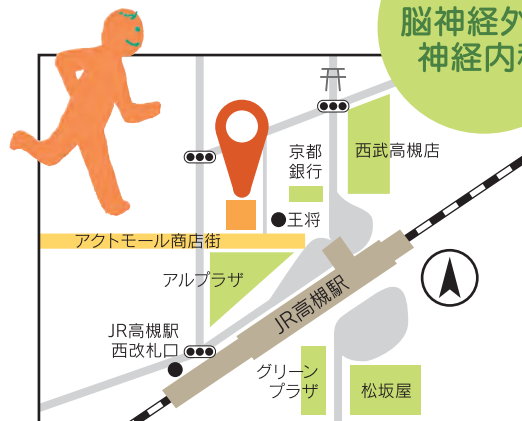
Q クリニックの特徴を教えてください

A JR高槻駅から徒歩約2分の場所に開院しました。土曜日も午前・午後共に診療を行っていますので、高齢者の方々のみならず働き世代の方々も掛かりやすい診療体制を敷いています。高血圧や糖尿病などの生活習慣病や、リハビリテーション病院退院後に脳血管疾患再発予防として投薬管理が必要な場合、あるいは「頭が痛い」「頭を打った」「最近、物忘れが増えた」等で、生活に支障をきたされる等の悩みを感じている場合に、気軽に掛かっていただければと思います。CT検査もクリニック内で随時行っております。

また、特徴としては院内処方を実施しており、薬剤師も1名常駐しています。ゆえに、わざわざ患者さんが診療後、調剤薬局に行く必要はありませんし、薬剤師と医師が顔の見える連携を行っていますので、患者さんにとっても安心感に繋がっているのではないかと感じます。

Q 目指されるクリニックについて教えてください

A この場所で地域に密着した医療を展開していきたいと考えております。少子高齢社会の中、医療従事者の立場より高齢者を支えることは勿論ですが、先述しましたように、高齢者を支える働き世代の方々においてもサポートが必要な場合は行い、この地域に貢献できればと思っています。



JR高槻駅北へ 徒歩約2分
アル・プラザ 向かいビル 荘田ビルW 2F
東口バス停 阪急バス西面大橋方面 二階堂バス停下車

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	▲	●	●	—	▲	●	—
午後	■	●	●	—	—	●	—

【午前】 ● = 9:00~13:00 ▲ = 8:30~12:00
【午後】 ● = 16:30~19:30 ■ = 17:30~19:30

【休診日】木曜日・金曜日午後・日曜日・祝祭日



井阪院長ありがとうございました。クリニックはアル・プラザに面し、院長が仰るように働いておられる方々も通いやすい印象を受けました。

リハビリテーション病院においても、退院後脳血管疾患等で再発予防が必要な患者さまが多くいらっしゃいますので、必要時には改めてご相談・ご紹介させていただきます。

◀ 井阪 俊彦 院長
医学博士・脳神経外科専門医



長谷川さんは、約5年前に脳出血を発症され、急性期病院で治療を受けられた後、リハビリテーション病院である当院に入院されました。当院退院後は、一般病院に転院され、障がい福祉制度を活用できる自立支援センターに入所、その後生活リハビリテーションを経られ、現在は在宅生活(一人暮らし)をされています。



Q. 自立支援センターから在宅退院された際のご様子、また、現在の状況についてお話を聞かせて頂けますでしょうか？

A 自立支援センターから退院する際は、利用できる障がい福祉制度を活用し、車いすでも生活が可能となる環境調整に向けた準備を行いました。今は、障がい福祉サービスによる通所サービス・訪問介護サービス等を活用しながら生活を行っています。また、訪問介護に入られるヘルパーさんにもサポートしてもらい、自分が日々感じていることを綴った『けろけろ通信』を発行しています。時には、通所している事業所を通じ、小学校の児童を対象にした講演なども行い、地域の様々な所に出向いています。

日常生活で長谷川さんが感じておられることを綴った『けろけろ通信』(2か月に1回発行)には、車いすで生活される方の視点や、私たち職員が把握できていない障がい福祉機器等の情報も掲載され、私たち職員も改めて学ぶ機会となりました。

また、「必要であれば自身の経験を(病院等で)他者に伝えます。」と仰って頂きました。長谷川さん、貴重なお話をありがとうございました。今後も宜しくお願いします。



愛仁会高槻 在宅サービスセンターだより

Tさんは若くして脳出血、その後脳梗塞を患いました。人工呼吸器と胃ろうで生命を維持し、全身の麻痺のため起き上がるだけでも数人の介助が必要でした。愛仁会リハビリテーション病院に転院し、1日3時間のリハビリテーションに加え、空いている時間には病棟の看護師さんと一緒に自主練習に取り組みました。半年が経ち自宅退院が決まりましたが、食事はまだ胃ろうからの注入が主で、歩くのも杖で70m程度がやっとでした。Tさんには「自分の足で歩いて通勤する」という明確な目標があり、訪問リハビリテーションと訪問看護が開始となりました。バスと電車を利用して通勤するのに必要な歩行距離を計算し、自宅周辺での目標地点を定め、訪問時以外は奥様の付き添いのもと、ひたすら自主練習の毎日。会社の方々も、休日を利用してTさんを積極的に外に連れ出してくれたり、勤務形態の調整をして下



発症から1年4か月後、後遺症と闘いながらも復職を果たしたTさん(30代男性)を紹介します。

訪問看護ステーション愛仁会高槻 理学療法士 泉 稜子

さいました。雨の日の通勤はどうするのかなど具体的なシミュレーションを重ね、2018年1月、Tさんは復職することができました。退院してからも目標を持ち続けるのは本当に難しいことですが、周囲のサポートと、何より本人の強い想いと努力があつてこそ迎えられる日でした。Tさんは今も働きながら次の目標に向かって進んでおられます。

